

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社 ノエル		
事業所名	グループホーム ノエル本庄		
所在地	埼玉県本庄市小島1-1-34		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは定員が1ユニット(9名)という少人数である事を、最大限に活かしたいと考えています。具体的には、入居者一人ひとりの意見をできる限り聞き、一人ひとりの時間の流れを大切にケアに努めています。一見、我儘に感じられますが、その人それぞれが在宅で生活されていたリズムを大切にすることが、当ホームの運営理念でもあります「人が人らしく」というその人らしさを尊重することではないかと考えています。また、手作りの暖かみを感じていただきたいとの思いから、食事をはじめ、ホーム内装飾、イベント等は基本的にスタッフの手作りで行っています。それぞれの時間の流れと、ホーム内の暖かみを感じていただけたらと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人が人らしく」という、その人らしさを尊重することを大切に考える理念のもと、一人ひとりに、やさしく接することを旨とした支援が行われており、家族のサポートや周囲の社会資源の利用と協力が得られている。家族会で、利用者の懐かしい写真をテレビに映して、思い出話をしたり、近所の寿司店の協力を得て、食べに出かけたりするなど、1ユニット少人数の特性を活かした、質の高いケアが実践されている。
平成22年度の目標達成計画の災害対策については、地元住民参加の合同避難訓練の実施や、また東日本大震災発生時にも、近隣住民からの声かけがあるなど、成果に結びついている。また、日常的な外出支援についても、少人数に分かれて、小旅行や外食を実施するなどの取り組みがなされており、目標の達成がうかがえる。今後は更に、職員の研修参加の充実を目標に、研修計画のもと、内部研修に力を入れ、事業所全体で取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は「人が人らしく」という運営理念を理解しケアに努めています。	「人が人らしく」の理念のもと、利用者のわがままにも耳を傾けながら、利用者の毎日の生活リズムを大切に、「1ユニット」である事業所の特性も活かし、利用者一人ひとりに寄り添う、心の通ったケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭や勉強会等を近隣の方々が参加できるように企画し、地域介護の拠点となるよう努めています。	地域介護の拠点を目指し、地域とのつきあいには、積極的に取り組まれており、地域住民への「薬についての勉強会」を開催したり、納涼祭にも招待するなどの地域貢献に努められている。小・中学校の体験学習の受け入れも検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社内勉強会に近隣住民を招き、介護に関わる勉強と場となるよう努めると共に、地域交流も行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族をはじめ、自治会長や市の介護課の職員等からの貴重な意見を運営に反映できるよう努めています。	定期的開催され、参加者により、事業所の運営について、活発な話し合いがなされている。「事業所をより理解していただくため、ノエル通信の発行回数を増やしたらどうか」の意見が出され、毎週日曜にレクレーションを企画し、その様子を掲載するなどの取り組みもなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護課とは、空き状況や事故報告等、良好な協力関係を築けていると思います。	運営推進会議の議事録等は、毎回届けられており、市介護課とは様々な面での連携が図られている。グループホームの現状をよく理解されており、運営推進会議や納涼祭にも、参加をいただくなど、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は入居者の皆様も落ち着いている為、玄関の施錠もしていません。	利用者の尊厳を大切に、「身体拘束はしないのが当たり前」を基本に、玄関も施錠せず、職員の五感を使っての見守り対応に努められている。転倒などのリスクもあるが、家族にも説明し、理解をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については防止を徹底すると共に、虐待に関する研修への参加や資料配布を継続していきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等、権利擁護に関する研修への参加やスタッフへの資料配布を継続していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に解りやすい言葉で、ご家族及び代理人に理解、納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見聴取の他、当ホーム玄関への意見箱の設置を行い、運営に反映できるよう努めています。	利用者からは、主に食事やレクリエーションについての意見や要望を伺い、改善にも役立てられている。家族とは運営推進会議や面会時に、情報交換を行い、また、家族会を開催し、自由な話し合いの場も設けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事や援助方針等、スタッフの意見を踏まえ意思決定するよう努めています。	管理者は、意見を出しやすい環境作りに心がけており、職員のそれぞれの得意分野を認め合い、職員紹介の飾り付けを季節ごとに変えたり、行事企画などにも、職員の意見・提案が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上を考えており、且つ計画的に実行しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会及び勉強会の費用負担等、各自職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	書類の整備等の情報交換を行い、同業者とも良好な関係を築く努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や心配事を丁寧に聞き取り、安心して生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向と併せ、サービスに対する質疑等にも丁寧に解りやすく回答するよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人の状態に応じ、適切なサービスは何かを家族と相談し、助言や当サービス以外の提案もさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場で考えるのではなく、ホームの生活環境の中で一緒に過ごしていくという姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への定期的な連絡の他、家族の負担を考慮しながら、家族のパートナーとして共に利用者を支える姿勢を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会等、本人が気兼ねなくコミュニケーションを楽しめるよう心がけています。	近所に住んでいた知人、友人や兄弟などの馴染みの人が訪ねて来られており、家族の意向も確認しながら、事業所も垣根なく受け入れられている。また、電話の取り次ぎや手紙、年賀状書きの手伝いなどにも支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活での利用者同士のコミュニケーションを大事にし、行事等を通し関わりが深まるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者ご家族に経過について、ご連絡をしたりと途切れない関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向をできる限りくみ取る努力をしています。	利用者と1対1で話す機会を大切にされており、職員が落ち着いて接することで、思いや意向の把握に努められている。利用者と職員との距離が近く、利用者の喜怒哀楽を察知し、心に寄り添うケアに取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴を教えていただいたり、紹介元よりサービス利用経過を入居の際には情報としていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアスタッフは一人ひとりの生活の状況を記録等を通し、情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議でそれぞれの生活状況を話し合い、主治医や看護師から助言等を参考にし、介護計画に反映させています。	「快適な生活」「体力の回復」などを支援するための介護計画作りがなされており、利用者・家族の希望を聴き、同意形成もなされている。看護師や職員のアイデアで、リハビリや「昼寝タイム」なども計画に取り入れられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は項目ごとに詳しく記入し、利用者それぞれの現状を把握し、ケア内容に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれの様々なニーズに対応できるよう柔軟性のあるサービス提供を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で活用できる地域資源の情報をいただき、参加していきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診のみではなく、利用者及び家族が希望する専門医を受診するようにしています。	利用者・家族、医療機関、事業所の連携を重視し、かかりつけ医への受診には職員も同行し、また、協力医の往診時、家族にも来ていただき、医師からの指示を伝え、利用者の状態を理解いただくよう努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師をはじめ、協力医療機関の看護師より助言をいただいた事を反映するよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関の主治医、担当看護師または相談員と定期的に連絡をとり、入院経過等の情報を得るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針に関して、主治医と家族が直接相談できる環境を整えたり、当ホームの方針を家族へお伝えする場を設けています。	利用者や家族の「重度化したら、どうなるのか」の心配に配慮し、入居時に事業所の方針をもとに、話し合いを行うとともに、医療行為が必要になった時には、病院、施設との連携、協力も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当及び初期対応に関する研修会等への積極的な参加やスタッフへの資料配布を継続的に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防法に則り、定期的な避難訓練と専門業者による設備点検を行っています。	地元の住民が参加する合同避難訓練も実施され、また、運営推進会議でも、家族からの意見を取り入れ、設備点検も含めて、災害対策に努められている。今後は夜間想定での訓練や、それに伴う近隣との協力体制作りなども検討されている。	利用者が重度化され、万一の時の避難に際しては、地元住民の協力は不可欠であると想定されることから、避難手順の確認、夜間時の協力体制づくりなどを行う合同訓練の充実等の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の皆様への言葉かけは、丁寧な言葉を使うよう心がけています。	「居室＝個人のもの」との発想で、ノック、声かけは当たり前のように、心掛けられており、プライバシーの確保には、気を配られている。また、言葉使いでは「否定しないこと」を前提に、利用者一人ひとりの尊厳を守るよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を促すような支援を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間の流れを尊重した暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際や日常生活の中で本人と話し合いながら衣服選びやおしゃれを楽しめるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の皆様と一緒に献立を話し合い、好きな食べ物を聞いたりして、食事が楽しい時間になるよう努力しています。	食器の素材にもこだわり、利用者も参加して、食べる前から楽しんでいただくことに気を配り、みんなでチラシを見ながらメニューを決めたり、外食で寿司を食べたり、ハンバーガーをテイクアウトするなど、様々な工夫がなされている。	食事については家族にとっても関心の高いことであり、食事の献立表を家族に送付するなどして、事業所の取り組みを紹介することで、事業所へのより一層の理解に結びつけられることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、適切な摂取量を確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの促しや週1回の訪問口腔ケアを利用し、口腔内の清潔保持を実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りリハビリパンツを使用し、排泄パターンを把握する事で失敗を減らす支援に努めています。	トイレで排泄することを忘れないように、入居前にオムツだった利用者はリハビリパンツへ、心配してリハビリパンツを履いている利用者は普通の布製下着に換え、しぐさやサインを見逃さず誘導することで、逆に失敗も減り、自立に向けた取り組みがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの排泄状況を把握し、主治医に相談をしながら便秘症状の解消へ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間はコミュニケーションをとる良い機会であると考え、ゆず湯や菖蒲湯等、入浴を楽しんでもらう工夫にも努めています。	利用者の体調にも配慮しながら、できるだけ希望の日時に入浴いただくよう努められており、ゆっくり、その人のペースで入られるよう1対1での支援が行われている。車椅子の利用者にも湯船に入っていたくため、2人介助での対応もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安眠や休息がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用や服薬方法について、いつでも相談できる体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクレーション等、楽しみながら日常生活を過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当ホームの車を利用し、季節の草花を見学しに行く等、積極的な外出支援に努めています。	全員一緒にはこだわらず、少人数であっても、外食や買物で外に出ることに積極的に取り組まれている。外気に触れていただけるよう、ベランダにベンチを置いて、日光浴をしたり、洗濯物の取り込みをやっていただくなど、日常的にも様々な支援は試みられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれの認知症の症状に応じて、自分のお金を使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に手紙を出したり、電話をかけたりできるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の装飾は手作りで暖かみの感じられる空間になっています。また、湿度や温度には常に注意し、感染症予防を含め、過ごしやすい環境をつくる事に努めています。	自然採光が取り入れられ、利用者と職員のお互いが見える作りのため、利用者も安心して過ごせる共用空間となっている。また、職員紹介パネルの台紙を季節に合わせて変えるなどの工夫もなされており、居心地の良さに配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士やスタッフと気軽にコミュニケーションをとれる空間づくりを心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用いただき、本人が居心地の良い空間になるよう努めています。	利用者が安心して、安全に過ごせるよう、ベッドの位置を替えたり、畳を敷いて、そこで休んでいただくなどの工夫が施されている。運動会の賞状や誕生カードを居室に貼り、利用者が楽しく、居心地良く暮らせるよう取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置やバリアフリー化等、本人のできる事を考慮しながら安全性に配慮したつくりになっています。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ノエル本庄

目標達成計画

作成日: 平成 24年 2月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	※災害対策 地域住民参加型の訓練や夜間想定訓練などの災害対策の充実。	評価員の方からの助言を参考に、地域住民に参加していただける訓練の実施や夜間を想定した訓練の実施を行い、災害対策の充実を図る。	①地域住民への訓練への参加の呼びかけ。 ②スタッフ会議の際に、通報や避難の手順(利用者各々の移動方法等)を確認する。 ③火災及び地震マニュアルの見直し。	3ヶ月
2	40	※食事の楽しむことの支援 献立や食事に関するイベントの情報を現状より更にオープンにし、利用者ご家族の理解を得る。	現状も食事支援には力を入れていますが、更に利用者ご家族へは、食事形態の説明や食事支援で積極的に行っている点などの情報をオープンにし、ご家族の理解を深めていく。	①試食会を開催し、日頃提供している食事を見てもらう。 ②イベント(誕生会等)の際のメニューの写真や献立表などを、月に1度ご家族へ発行している通信に掲載する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。